

## 16 住民に期待される緑 —市民アンケート・住民参加行事を通じ—

岐阜県岐阜土木事務所 巢之内亮、財団法人砂防フロンティア整備推進機構 岡本和之  
アジア航測株式会社 天野篤・伊藤浩・○浜田美鈴

### 1. はじめに

岐阜市・各務原市の市街地に隣接する山麓は、市民にとって貴重な樹林帯であり里山である。この里山は、両市の景観を代表するものであり、多様な生物が生息する空間であるが、市民にとっても憩いの場、レクリエーションの場として利用されている。その一方で、両市ともこの山麓部にまで居住域が拡大する傾向にあり、樹林の減少に伴い土砂災害の危険性が年々増加している。このため岐阜土木事務所では、平成9年度より「岐阜・各務原グリーンベルト整備基本構想」の策定に着手し、無秩序な市街化を抑制して土砂災害に対する安全性を確保するとともに、緑豊かな都市環境・景観の創造を図ることを目的として、里山の樹林帯の保全・形成について検討を行っている。また、都市山麓グリーンベルト整備事業では、樹林帯の担保、長期にわたる維持・管理活動等に伴い、地元住民の理解・協力が不可欠である。そこで、構想策定段階から住民の意向を反映させ、住民参加型の事業として推進していくために、市民アンケート調査、地元有識者による懇談会を行った。それらの成果を報告する。

### 2. 対象地の概要

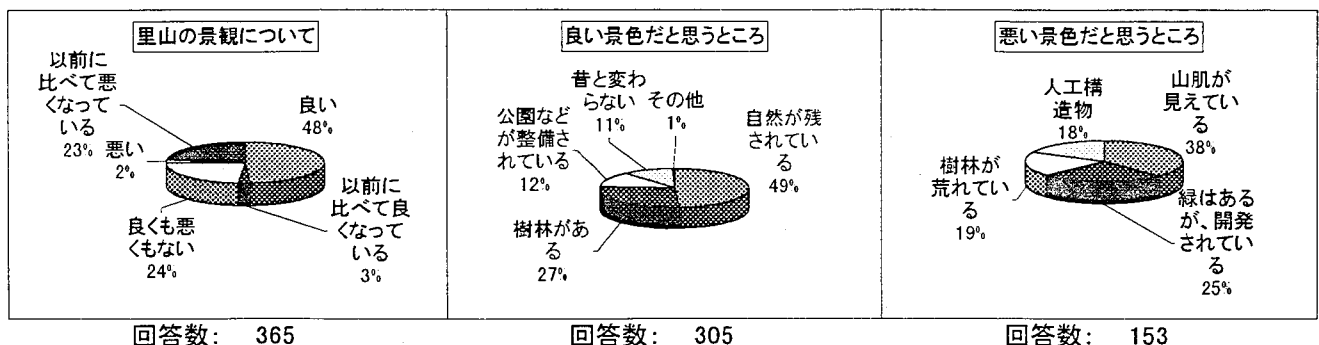
岐阜市・各務原市では、北西～南東方向に山地が連なっており、市街地にも山地が点在して、現存する樹林帯は、主にそれらの山地に形成されている。景観のすぐれた地域・箇所、自然環境等保全すべき地域として、岐阜市では長良川・金華山周辺・舟伏山周辺・百々ヶ峰周辺等、各務原市では木曾川・伊木山周辺・鶴沼・八木山周辺等が挙げられ、里山を背景にした美しい景色が定着しているが、山麓部の開発により、景観が変わりつつある。岐阜市では、主に長良川右岸側の山麓部に位置する地域で人口が増加し、逆に市街地の中心部周辺に位置する地区で人口が減少するという、小規模なドーナツ化現象が見られる。各務原市では、市全体で人口増加傾向が続いており、今後も市全体での人口増加が予想される。また両市の市街地の変遷をみると、昭和36～45年にかけて市街地は山麓に向かって著しく拡大し、山地を切り開いて団地が建設された箇所もある。近年では、急激な範囲の広がりは生じていないが、山麓などの残された平地において開発が進んでいる。このような開発に伴い崖崩れ災害が発生する事例が見られ、宅地造成に伴う人工崖で特に多く発生している。

### 3. 市民アンケート

今回実施したアンケートでは、岐阜市・各務原市の地域住民(1,000人を無作為抽出)を対象とし、両市内にある里山について、土砂災害、景観、環境等に関する意識の調査を行った。アンケートの回収総数は436通であったが、各設問ごとの有効回答を母数として集計した。その結果を以下に示す。

#### 3.1 里山の景観に関する意見

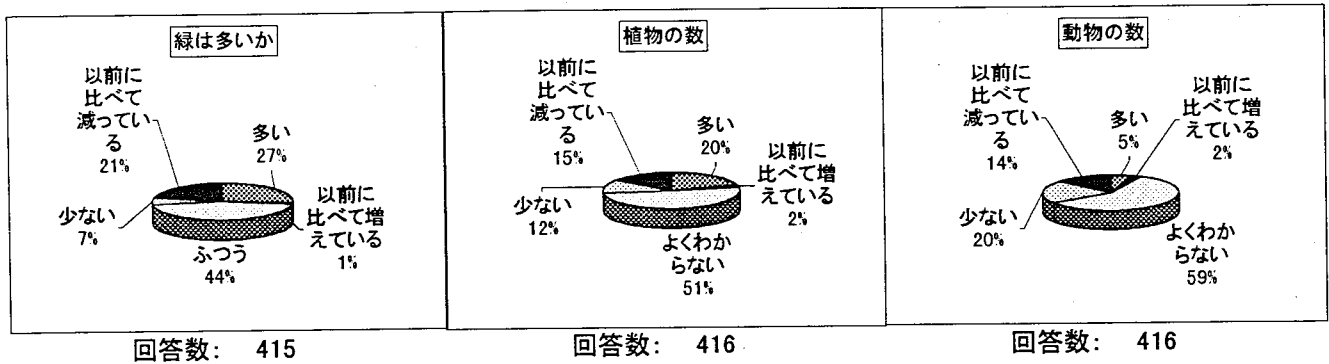
景観が「良い」という回答が約半数を占めるものの、「以前に比べて良くなった」という回答は3%しかなく、「以前に比べて悪くなった」という回答が23%見られた。また、良い景色だと思うところは「自然」「樹林」と答える人が約7割と多かった。自由意見でも、現在の緑豊かな景観を維持(場所によっては樹林を復元)することを望む意見が多かった。



#### 3.2 自然環境に関する意見

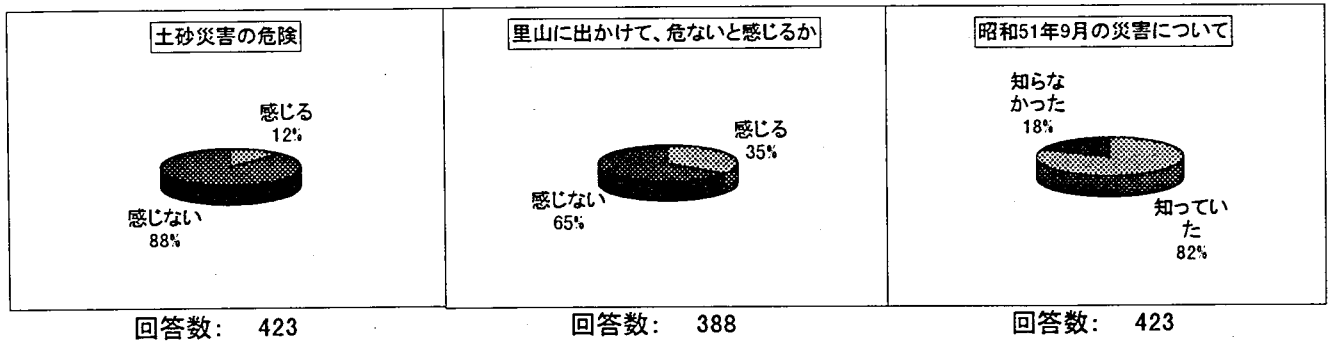
里山の緑が「多い」～「ふつう」という回答が合わせて約7割、少ないという意見は7%で、ほとんどの人が現状に満足していると言える。しかし、「以前に比べて減っている」という意見が21%であった。動植物についても「以前に比べて減っている」とする回答が約15%と多かった。また自由意見では、自然環境の保全を望む

む声が多かったほか、放置され荒廃した里山に対する適切な管理を求める意見が見られた。



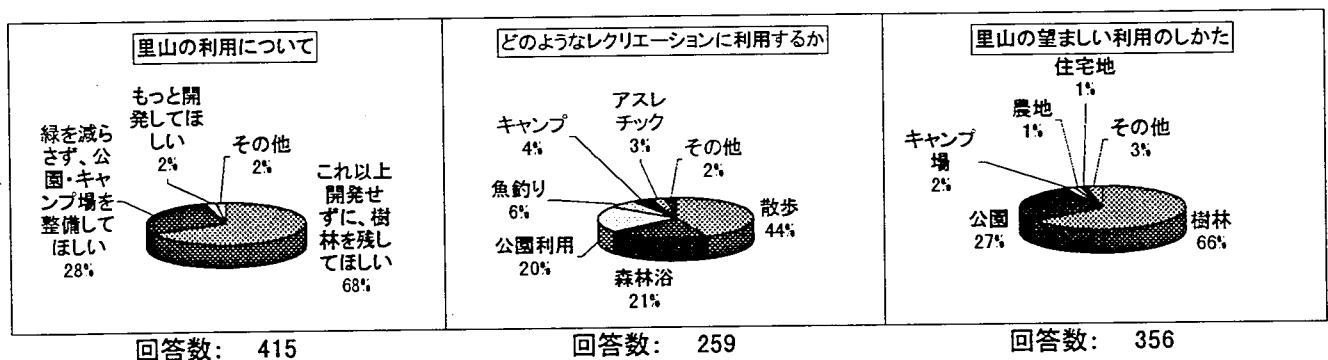
### 3.3 土砂災害に関する意見

自分の家において土砂災害の危険を感じるかどうかについて質問したところ、「感じる」という回答が12%であり、里山に出かけた際に危険を感じるかどうかでは、「感じる」という回答が35%であった。自由意見では、土砂災害の危険性がある箇所に安全対策を実施してほしいという意見が見られた。また、昭和51年の土砂災害で犠牲者が出たことについては「知っている」と答えた人が8割以上であり、土砂災害に対する意識は低いと考えられる。



### 3.4 利用に関する意見

今後里山をどのように利用するかについては、これ以上開発せず樹林を残してほしいとほとんどの人が考えている。里山のレクリエーション利用については、「散歩」「森林浴」が約7割であった。また自由意見では、自然状態を残した利用が望ましいとする意見が大半であったが、他に遊歩道・ベンチなどの施設整備を望む意見、倒木の除去・下草刈りなどの適度な管理を望む意見、里山へのゴミ放置に対するマナーの呼びかけを望む意見、大規模な開発をとまなう公園整備を望む意見なども見られた。



### 4. おわりに

岐阜市・各務原市の市民アンケート調査では、里山の景観については、ほとんどの人が良いと思っているが、良くなっているとは思っていないことがわかった。自然環境面では、現在も豊かな自然が残っているとはいえ、以前に比べれば徐々に樹林や動植物が減りつつあると感じている人や、開発による樹林の減少を危惧する意見も多かったことから、山麓を樹林として確保し、開発の抑制を図るとともに、豊かな自然環境を維持・創造していくことが望まれていると思われる。また、どのようなレクリエーションに利用するかについては、散歩・森林浴などの穏やかな利用が多く、やはり良好な樹林を前提にしていることがわかった。ただ、遊歩道等をもっと整備してほしいという意見があったことから、里山により親しんでもらうためにも、樹林の整備だけでなく、利用しやすくするための施設整備も必要と言えそうである。